



はくほうWalker

広報誌名「はくほうWalker」
はくほう会セントラル病院は地
域住民や患者様と共に歩むとい
う想いが込められています。

～
No.8

謹んで新年のご挨拶を申し上げます
院長挨拶

当院最前線の感染対策

～安心して受診していただくために～

皮膚科のご紹介

～当院で相談しやすい、優しいと評判の先生です～

介護老人保健はくほう
新築移転

地域連携室

地域の皆様と病院をつなぐ架け橋

Reaction 始動！！

謹賀新年



はくほう会セントラル病院 院長 古賀正史

新年のご挨拶

新年明けまして、おめでとうございます。しかしながら、今年は新年の挨拶をするのが、はばかれる思いです。それは、新型コロナウイルス感染症が原因です。

新型コロナウイルス感染が中国武漢で発生し、感染が広がりつつあるとの情報を1年前に耳にしましたが、その頃は遠い外国の話として聞いていました。その後、新型コロナウイルス感染は世界中に広がり、猛威を奮い、WHO（世界保健機構）はパンデミック（世界的流行）宣言を行うことになりました。日本には昨年1月に上陸し、その後、クルーズ船の「ダイヤモンド・プリンセス号」が横浜港に停泊中に多数の新型コロナウイルス感染症患者が発生し、大騒ぎになりました。3月には第1波の到来があり、日本政府により緊急事態宣言が発出されることになりました。その結果、一旦収束しましたが、第2波、第3波と次々に感染の波が訪れ、昨年は新型コロナウイルス感染に振り回された1年でした。

皆様方にとって新型コロナウイルス感染症の拡大により今までの生活が一変されたことでしょう。ウイルスは目に見えず、敵の正体がわかりにくいので、戦い方や防ぎ方は困難でした。予防としてはマスク、手洗い、3密を避けることが基本ですが、大人数での会食やカラオケは避ける必要があります。そのため、多くの方々は自宅で閉じこもり、テレワークを行ったり、遠隔講義を受けられたことでしょう。

歴史を紐解くと、人類は伝染病との戦いがずっと続いています。世界中を襲ったパンデミックとしてペスト、天然痘、スペイン風邪（インフルエンザ）などが挙げられます。14世紀のヨーロッパを中心に流行したペストは2500万～3000万と多数の死亡者が出ています。また、16世紀にコロンブスがアメリカ大陸を発見しましたが、彼らが天然痘を南北アメリカ大陸に持ち込み、天然痘の免疫を持たなかった先住民の多数が罹患し、人口は約10分の1にまで減少しました。このことが、インカ帝国の滅亡の原因にもなりました。約100年前にはアメリカでスペイン風邪が発生し、第一次世界大戦のヨーロッパ戦線にアメリカ軍が大量に投入されたことでヨーロッパへ持ち込まれ、さらに全世界へと拡大し、死亡者は約5000万人～1億人にのぼりました。上記の感染症は多数の死亡者を出しましたが、最終的には収束しています。なお、上述の天然痘に対してワクチンである種痘を世界規模で接種することにより、絶滅することができました。

当初は新型コロナウイルスに対しては敵の正体がわからずに、新型コロナウイルスに対して戦っていましたが、1年間の研究によりかなり敵の正体がわかってきました。また、有効なワクチンが出来上がり、昨年末よりワクチンの投与が開始されました。今年はこれらの知見や武器を駆使することにより、新型コロナウイルスに対して優勢な戦いを進めていけるのではないのでしょうか。今年中に新型コロナウイルス感染症が収束し、皆様に安らかな生活が戻ってくることを期待しています。

RE Action 始動！

RE Actionとは企業、自治体、教育機関、医療機関等の団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する新たな枠組みです。

当院では7/1よりレジ袋の全面廃止、8/11より売店のお箸・スプーン等が有料化となりました。利用者の方々にはご不便をおかけしていることをお詫び申し上げます。今後ご理解・ご協力を頂きますよう、よろしくお願い致します。

11月には院内でRE Action委員会を立ち上げ、本格的に活動を開始することとなりました。自分たちには何ができるのか、何をすべきなのか、まだ手探り状態ですが、患者様やご家族だけでなく環境にも優しい病院を目指し活動を行っていきます！

再エネ100宣言
RE Action



売店で販売している再エネ100宣言RE Actionのロゴが入ったエコバッグ。再エネ100宣言のHPでも紹介されています。

介護老人保健施設はくほう 新築移転



施設長 鈴木正昭

私は、2020年9月よりこの介護老人保健施設はくほうの施設長として着任いたしました。昭和56年に医科大学を卒業後、急性期病院等に39年間勤務して内科診療を行って参りました。専門分野は代謝・内分泌疾患です。当施設において多職種の方々と共に入所者さんの介護、リハビリ、診療を行っております。まだまだ業務に慣れないのですが、とてもやりがいのある職場です。念願の新築移転は、長梅雨や新型コロナの影響により、かなり工期が遅れておりますので、はくほう会セントラル病院の近くである園田の方に移転するのは、2021年6～7月頃の予定です。

新施設においても入居中の方々と職員方々と有意義に行って参りたいと思います。
どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

老健施設はくほうってどんなサービスがあるの？

入所 サービス

ユニット型とはすべてが個室であり、1ユニットが10人の入居者で構成され、入居者様と職員が「馴染みの関係」を重視して生活していただけるものです。ユニット型と従来型（認知棟）の併設した介護老人保健施設は尼崎市として初めてとなります。共有スペースであるリビングを囲むように家庭的な雰囲気与生活を送ることができ、それぞれの生活リズムで生活することができます。



ショート ステイ

要介護の方が数日～1週間くらいの短期で施設に入所できるサービスのことです。利用することで入浴、食事、リハビリなどのサービスを受けることができます。当施設ではレクリエーション、リハビリにも力を注いでいます。

デイケア

在宅で生活をされており、介護やリハビリ等を必要とされている方が、自立した日常生活を送れるように、必要なサポートを日帰りで提供しています。主な介護ケア内容として、入浴・食事・レクリエーション・集団リハビリなどを行っており、利用者の皆様に笑顔で過ごしていただけるよう、季節ごとの行事やイベントなども計画し、取り組んでいます。

また、送迎も行っておりますので、入浴やリハビリをしたいが自分で通うことが出来ない方も、お気軽にご相談ください。



～はくほう会セントラル

当院は新型コロナウイルスの感染予防として様々な取り組みをしています。

地域の皆様、患者様はもちろんのこと、働くスタッフも安心できる環境を整え、安心・安全な医療を提供できるよう日々努めています。一時期はマスクやガウンなど医療資源の確保が大変でしたが、現在は自治体や業者などの協力もあり、当面は困ることのない資源が確保できています。

また、以前は早急な対策のため手に入るもので工夫して行っていましたが、国からの支援金によって以前よりも機能的なものに変更しています。

今回、一部ではありますがご紹介いたします。

発熱外来用のコンテナ設置



検温システム



外来パーテーション



薬局パーテーション

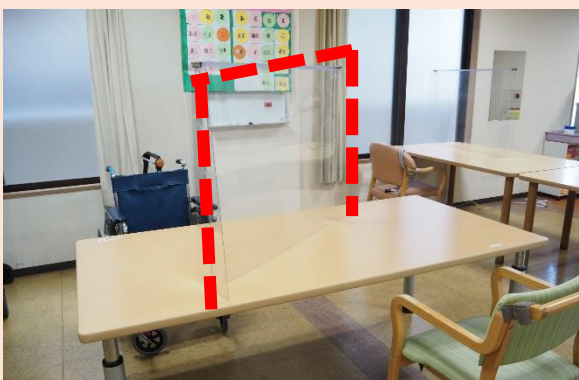


リハビリ室



リハビリ機器の間にパーテーションを設置し、安心してリハビリが行える環境を作っています

回復期病棟の入院患者の食事



見守り・介助が必要な方はパーテーションを設置し、席も離れた位置で召し上がって頂いています

会議



オンライン会議を取り入れ、密な環境を作らず、各部署から参加できるようにしています

病院の感染対策～

発熱患者は個人用防護具（PPE）で対応



陰圧装置



空気清浄機
(HESTAエアクリーン)



ウィルス平均除去率99%
人が集まりやすいナースステーションに置いています

医療資材



この他に自動会計ができる機械などを取り入れていく予定にしています。
コロナウィルスの感染が兵庫県内でも増加傾向です。不要不急の外出は控えたとしても医療は生きていく上で不可欠なものです。私たち医療スタッフとしてまず出来ることは、地域の皆様が安心して医療を受けられる環境を作ることです。そのためには私たち医療スタッフの安全を守ることも大切だと考えています。

ご来院・ご入院する際には、お手数をおかけすることもあると思いますが、ご理解賜りますようお願いいたします。

MOON BEAM
(衛生施設用除菌システム)



除菌作用の高い紫外線を照射することで、
広範囲を短時間で除菌できるシステムです

アクアフィルム水溶性バッグ



直接熱水洗濯機に投入可能
であり、バッグは洗濯機の
熱水で完全溶解する

感染予防用全自動洗濯機・乾燥機



感染予防用熱水プログラム搭載し、アクアフィ
ルムシステムに完全対応



皮膚科 紹介

2019年4月から新規に皮膚科外来が始まりました。常勤医師の安藤が月曜から金曜日の午前診察を担当しています。今のところ1日20人程の外来数ですが、月に数回の休診日がありますので、電話で確認や予約を入れていただくと待ち時間も短く受診していただけたと思います。



皮膚科
安藤 佳洋医師

内科や外科と比べると、皮膚科はなじみが少ないかもしれませんが、皮膚は頭から足まで全身を覆い、心臓、肝臓など比べても一番大きな人体の臓器です。

また、内臓の病気と違って、その変化や異常が目で見えてすぐわかるため、昔から多くの症状や病気が知られており、いろんな呼び方や俗称があります（カッコ内は医学専門用語）。

症状を表す言葉には、かさぶた（痂皮）、かわむけ・えぐれ（びらん・潰瘍）、こな（鱗屑）、しこり（硬結）、水ぶくれ（水疱）など。病名には、みずむし（足白癬）、いんきん（股部白癬）、ぜにたむし（体部白癬）、しらくも（頭部白癬）、十円はげ（円形脱毛症）、はたけ（顔面単純性皰糠疹）、にきび（ざ瘡）、あくち（口角炎）、あばた（陥凹性瘢痕）、赤ら顔（酒皰）、白なまず（白斑）、黒なまず（癜風）、赤あざ（血管腫）、黒あざ（色素性母斑）、しみ（色

素斑）、いぼ（疣贅）、水いぼ（伝染性軟属腫）、とびひ（伝染性膿痂疹）、できもの・ふきでもの・でんぼ（毛包炎・癰）、あせも（汗疹）、わきが（腋臭症）、しもやけ（凍瘡）、やけど（熱傷）、とこずれ（褥瘡）、日焼け（日光皮膚炎）、かぶれ（接触性皮膚炎）、フケ症（脂漏性皮膚炎）、うおのめ（鶏眼）、たこ（胼胝）などなど。

他に、耳慣れない“尋常性”（“一般的な”を意味する医学用語）がつく病名に、尋常性乾癬、尋常性魚鱗癬、尋常性ざ瘡、尋常性天疱瘡、尋常性白斑、尋常性疣贅、尋常性狼瘡など。長い病名では真皮貫通性毛包性毛包周囲性角質増殖症、再発性熱性結節性非化膿性脂肪織炎、環状弾力線維融解性巨細胞肉芽腫、膿瘍性穿掘性頭部毛包周囲炎などなど、稀なものを含めれば皮膚疾患は数百あると思います。

珍しい病気や特殊な治療が必要な場合は近隣の総合病院皮膚科に、また、切除手術が必要な悪性腫瘍などは形成外科に紹介させていただいています。当科では、爪切り、タコ削り、イボ冷凍治療など日常生活に少し支障をきたす身近な皮膚病の治療をとおして地域の皆様のお役に立てるよう努めています。肌のトラブルや何かお困りごとがあれば気軽に受診、相談して下さい。お待ちしております。



皮膚科 外来診察日

（月）～（金）：9:00～12:00

※休診の日がありますので、お問い合わせいただくか、ホームページ等でご確認ください。

地域連携室 紹介



当院地域連携室では①病診連携、②入院支援、③退院支援の役割を担っています。

病診連携に関しては入院を要する患者様にはスムーズにベッドを確保できるように外来や病棟との連携を円滑に図れるように取り組んでいます。また、MRIおよびCT、上部消化管内視鏡、腹部エコーなどの検査予約も電話・FAXにて随時対応できる体制を整えています。

入院支援ではご希望がある方には医療ソーシャルワーカーにて家族との入院前面談を実施し、入院への不安軽減に努めています。退院支援では入院早期から退院困難な要因について情報収集し退院に向けての支援を行っています。また、入院時から退院までの安心した入院生活を送れるように入院・退院調整のみならず、それに伴うさまざまな診療支援、相談、各種手続きのお手伝いをさせていただいています。

また、年に数回「病診連携の会」を開催し地域の先生方との交流を深めることにより、地域一丸となって患者さんを支えるための仕組みづくりに取り組んでいます。

当院地域連携室には医師、看護師、社会福祉士らが在籍し患者様が住み慣れたご自宅や地域での安心した医療を受けられるように、また安心して暮らしていけるように医療介護・介護福祉施設・訪問介護士や介護専門員との連携を取り合い、医療・看護・介護サービスの提供ができるよう円滑に支援調整を図るよう努めております。今後とも皆様方に地域で完結できる安心した医療を提供していきたいと思ひます。



外科 副院長
地域連携室室長
井上 晃男



リハビリテーション科
部長
地域連携室室長
伊藤 隆彦



【組織構成】

医師2名、看護師1名、社会福祉士5名、事務職員1名

【受付時間】

平日 8:30～17:30
(検査依頼のみ19:00まで)
土曜日 8:30～12:30



病院ホームページのご案内

はくほう会セントラル病院では、ご利用いただく全ての方々に、見やすく、分かりやすく情報をお伝えできるように、ホームページ、SNSを随時更新しております！また、日々更新、最新情報を掲載するように努めています。



はくほうかい

ホームページ アドレス <http://www.amahakuho.jp/>



やっています

やっています

スマホをお持ちの方はQRコードから



地域の医療を支える仕事 一緒に働いてみませんか

職員募集中！

看護師・薬剤師・社会福祉士・介護員・送迎運転手
などなど多くの職種・お仕事があります！



詳細はホームページをご覧ください。直接お問い合わせください。



RE Actionは、2050年までに再生可能エネルギーで事業
のエネルギーの100%を賄うという取り組みです。

再エネ100宣言
RE Action

伯鳳会グループは、全国の医療業界からただ一つの
スターティングメンバーとして、この取り組みに参加しました。

【編集後記】

昨年はCOVID-19(コロナウィルス)が世界的に流行し、大変な一年となりました。会食、旅行、イベントなど相次いで制限がかかり、生活スタイルの変更が余儀なくされました。しかし、この機会にできることも増えました。今まで対面式が主流であった会議・飲み会がオンラインにて行え、パソコンに不慣れな世代も使うことができるようになりました。さらに音楽イベントでは私たちが行くのではなく、アーティスト側からの配信も増え、おうち時間が一層楽しくなりました。

今年はワクチンが日本でも行うことになるでしょうが、こうした生活スタイルは今後も続くでしょう。友人と会う機会が減りますが、オンラインで覗かせる今まで見たことのない姿を楽しむのもおつな時間です。今の間にうち時間をさらに満喫させる趣味や今後の未来構想など考えるのも有意義な時間になると思います。

医療業界でいえば、COVID-19の対応に追われる一年となりました。緊張の連続でありましたが、企業や自治体、地域の皆様からの数々の支援に寄せられた言葉によって、立ち向かう力を得ることができました。今年いっぱいもおそらく緊張感のある日々になると思います。しかし、その中でも小さな幸せや充実感を感じ、取り組める一年にしたいと思います。そのためには自分がまずは感染しないこと、次に感染させないことを徹底していきたいです。

今年は昨年と違い、「COVID-19のせい」ではなく「COVID-19のおかげ」でと言える前向きな一年にできればと思います。

はくほう会セントラル病院 広報委員会



医療法人伯鳳会
はくほう会セントラル病院
兵庫県尼崎市東園田町4丁目23番1号
TEL : 06-4960-6800 (代表)
FAX : 06-4960-6900